

東京大学理工学研究所

第6回定期講演會プログラム

日時 昭和25年6月8日(木), 9日(金)

場所 東京都目黒区駒場町855 東京大学理工学研究所

○印は講演者, ()内は講演時間(分)

第1会場

第1日(6月8日,木)9時—12時

開會の辞 所長 武藤俊之助

1-1. 二酸化マンガン沈澱のトポケミストリ

(10) ○藪田孝彦, 牧島象二。硫酸マンガンを溶液に過マンガン酸カリ溶液を滴下, ガラス電極でpHを一定に保ち, 得た Mn_2O_3 の沈澱の色調, 濾過性, 反応性を調べた。

1-2. 空隙率と粒径の關係に就ての理論の試み

(10) 早川宗八郎。粉體の粒子一個について, その自由エネルギーに相當する量を假定して, その極小條件から, 平均粒径と空隙率の關係を導き, Roller によつて與えられた關係を説明する。

1-3. 濕氣の吸収發散及び通過膜の透濕性について (10) 武田文七。前報に引きつづいて, 纖維素誘導體膜, 合成樹脂膜の透濕性の溫度による變化を測定し, 透濕の機構を推論した。新に難透濕性と思われる合成樹脂膜を選び測定し, 疎水性基が透濕を妨げる重要な因子であることを例示する。

1-4. 液體の蒸發速度の研究(第1報) (10)

永井雄三郎, ○玉井康勝。常溫常壓で大氣中に擴散して行く蒸溜水の蒸發速度を測つた。又, 蒸發に伴つて水面に生ずる溫度降下を知る方法を考え, その結果を吟味した。

1-5. 自動操作式小型分溜塔の製作 (10) 田村孝章。試料を仕込めば後は自動的に動作し得る分溜塔を今回試作したので, その構造及びそれから得た分溜曲線の一例をのべる。

1-6. 半微量用迴轉型分溜塔 (8) ○田村孝章, 古江典昭。分析試料 10 g 以内で分溜を行い得る塔を作るために, 小型の Spinning Band 型のを試作したの

で, この塔の性能についてのべる。

1-7. キュルダール窒素の簡易微量定量法 (8)

岩井浩一。普通のキュルダール窒素定量法と同一原理で微量通氣管を用い, 100 r 附近の有機窒素を同時に多數, 迅速簡易に定量することができた。

1-8. アミノ酸のペーパークロマトグラフに対する鹽酸の影響 (10) 安藤銳郎, ○石井信一。ペーパークロマトグラフ法でアミノ酸を分析する際, 試料中にはしばしば鹽酸が含まれている。この鹽酸の影響を若干系統的に調べた。

1-9. クルペインの末端カルボキシルについて (10) ○安藤銳郎, 橋本千恵子。クルペイン(硫酸鹽)分子をおだやかにメチルエステル化しえて, 末端カルボキシル基の存在即ち鎖状ポリペプチドであることを示した。

1-10. タバコ・モザイク・バイラスの超遠心分離機による精製について (10) ○渡邊格, 大塚由己, 水島三一郎。超遠心分離機によりタバコ・モザイク・バイラスを精製し, その純度を生物學的, 化學的, 物理的方法でしらべた。

1-11. ヌクレオクルペインの抽出について (10) 渡邊格, ○鈴木堅之。鹹白子からヌクレオクルペインの抽出精製を行い, その若干の化學的性質を研究した。

1-12. 酵母核酸の分子形について (10) 渡邊格, ○磯見二郎。酵母核酸の擴散及び粘性を測定し, この説明として徑約 16 Å, 長さ 200 Å, 分子量約 28,000 の棒状分子なることが判明した。

1-13. 數種の核酸の電氣泳動易動度について (10) 渡邊格, ○宇井信生。Tiselius 型の電氣泳動装置を用い, 數種のデオキシ核酸, リボ核酸の電氣泳動易動度を測定し, 比較検討を行つた。

1-14. 滲透壓の測定 (10) 大塚由己。水溶液の